

らら京都 ニュース

退任あいさつ

京都府男女共同参画センター 前名誉館長 浜野 令子

ららの贈りもの



女性団体や女性の期待を担って女性の活動拠点「らら京都」が誕生して27年。

私は17年間お世話になり、ららでの女性たちとの出会いは“ららの贈りもの”私の宝物です。

本当にありがとうございました。

平成8年らら京都がオープンした時から、KYOのあけぼのフェスティバルは、ららで開催。女性の活動拠点をアピールし、

参加者に元気や何かの気づきをとプログラムの企画から17の女性団体が実行委員会を重ねられた。

当日の朝、貸切バスが次々に到着。テルサホールは満席、講演やワークショップ、バザールを楽しむ女性たちの元気な声がテルサ全館に響いた。うれしかった。

感謝を込めて帰りのバスが見えなくなるまで実行委員と手を振った。

他府県にないユニークなフェスティバルは、今年で35回を迎える。

市町村へ出かける地域おこしセミナーでは、どこに行っても家庭と地域を大切にしながら持てる力とアイデアを出し合い、仲間をつくり、やりたいことを実現していく女性たちがいた。女性たちの実践を見て女性が活躍する地域の方が活気がある、男女共同参画の方がよいと思う人がまわりに増えていけば地域は元気になると思った。

再就職支援のパソコン教室で『仕事が見つからないのは自分のせいだと思いませんか。今の社会の問題でもある』と話した時、幼い子を保育ルームに預けて参加した女性の目に涙が光ったのを忘れることができない。

生きづらさや困難を抱える女性の拠り所となるららの役割は、コロナ禍で真価を問われる。ららは相談員を増やし、マザーズジョブカフェと連携し、相談から就労までのサポートをしている。

ららがあってよかった。ららは、役立っていると思ってくれる人がいろんな分野で増えてほしい。

これからも自分らしく生きようとする人を全力で支えていくらら京都であってほしいと願っています。

多くの贈りものを大切にします。

ありがとうございました。